

初夏播甘藍の育成とその特性について

幾竹 正実・古田 勝己・河野 清

(熊本県農業試験場)

育成のねらい

熊本県農試に於ては耐暑性と耐病性を持った夏蒔甘藍の育成を目標に自家不和合性利用による優良な夏蒔甘藍の育成につとめて来た。現在熊本夏蒔試交1号及試交2号を出して普及に移している。これは夏藍早生として7月中旬播種で11月～12月出荷の栽培として普及している。この品種より手前に栽培する品種として使用し得る品種を作出することをねらった。この栽培で特に要求されるのは耐病性と耐暑性を持ってしかも品質の良いことと輸送性のあることであつた。ほぼこの要求にそい得るものを育成し得たので報告する。

育成経過

高温多湿の熊本県下では5～6月播種8～9月出荷の栽培が一番困難である。耐暑性があつてしかも軟腐病に強い品種でなければこの時期の栽培は困難であ

る。耐暑性は葉深に求めざるを得ないし葉深と交配可能の品種を検討した結果愛知夏蒔の分系で自家不和合の系統との一代雑種がほぼ目的にかなつた栽培可能であることが1960年より3カ年の特性検定の結果判明し亦採種も一応軌道にのり普及に移すことが出来る見とほしがつた。

特 性

葉色は黒葉、結球葉数は45枚程度、球重は1K 20gr前後、平坦地の熊本市に於ける成績では6月20日前後の播種で90日、6月下旬播種では95日前後の生育日数を要す。夏の甘藍には肉質の良いこと並に輸送性を持ったものであることが要求される。尚耐暑性並に耐病性を併せて保持していることも必要であるがその特性も持っている。

試験成績

初夏蒔における育成種(葉深系統×愛知夏蒔)の適応試験成績

品 種 名	播種月日	収穫月日	生育日数	総 重	球 重	内 葉 数	外 葉 数
YSB1-1-1-3×p53 (育成種)	6月20日	9月24日	95日	2,280	1,120	44.7	15.1
p53×YSB1-1-1-3 (育成種)	"	9月20日	91日	2,180	1,085	44.3	14.5
長岡交配初秋	"	9月17日	87日	1,481	1,170	52.0	14.7
ト	"	9月20日	91日	2,225	1,125	46.0	13.5
YSB1-1-1-3×p53 (育成種)	7月5日	10月8日	94日	2,155	1,220	50.3	13.4
p53×YSB1-1-1-3 (育成種)	"	10月8日	94日	2,175	1,250	51.3	13.4
長岡交配初秋	"	10月4日	90日	1,720	0,920	53.0	12.5
ト	"	10月8日	94日	2,400	1,480	52.6	12.7

特 性 調 査 (6月20日播種)

品 種 名	緊度	病害	生育揃	耐病性
YSB1-1-1-3×p53(育成種)	良	強	良	強
p53×YSB1-1-1-3(育成種)	良	強	良	強
長岡交配初秋	良	強	中	強
ト	良	稍々強	良	強

結 言

育成種は不和合性利用の一代雑種で揃がよい、又耐

暑性、耐病性が極めて強く球の緊りや品質もすぐれているので初夏蒔用として有望である。九州地方に於ける高冷地の春蒔や初夏蒔に用いられるほか平坦地に於ても従来品種では栽培困難な6月中旬播種、9月中旬収穫の栽培型が容易である。